

令和7年1月27日

土佐リハビリテーションカレッジ
理事長 大崎 博澄 様

学校関係者評価委員会
委員長 北村 剛

第11回 学校関係者評価委員会報告書

令和6年度開催 第11回 学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 小笠原 正 (企業等評価委員)
- ② 一圓 智加 (企業等評価委員)
- ③ 細田 里南 (卒業生評価委員)
- ④ 北村 剛 (卒業生評価委員 委員長)
- ⑤ 大窪 康介 (専門家等評価委員)
- ⑥ 濱川 美香 (高等学校等評価委員)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

- 第1回委員会 平成27年8月29日 (会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室)
- 第2回委員会 平成28年10月1日 (会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室)
- 第3回委員会 平成29年7月29日 (会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室)
- 第4回委員会 平成31年3月26日 (会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室)
- 第5回委員会 令和3年7月9日 (会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室)
- 第6回委員会 令和4年3月29日 (会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室)
- 第7回委員会 令和4年12月16日 (会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室)
- 第8回委員会 令和5年3月30日 (会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室)
- 第9回委員会 令和6年1月17日 (会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室)
- 第10回委員会 令和6年3月27日 (会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室)

3 学校関係者評価委員会報告書

別添のとおり

以上

別添

令和7年1月27日
土佐リハビリテーションカレッジ
学校関係者評価委員会

第11回 学校関係者評価委員会報告書

令和7年1月22日に開催された委員会の討議に基づく検討課題と改善に向けた取り組みについて
評価結果をまとめた。

1. 国家試験合格率について

【令和6年度の取り組み】

○国家試験合格率「新卒者100%」に向けての状況

- ・第60回理学療法士・作業療法士国家試験が、令和7年2月24日に実施予定である。理学療法学科34名、作業療法士26名が新卒生として受験予定である。科目履修生として、理学療法学科1名、作業療法学科3名も新卒生とともに学習を行っている。各教員の対策のもと、グループ学習を中心に模擬試験で学習の進捗状況を確認しながら、個別対応の必要な学生への対応を行っている。本年度よりリハドリル（スマホやPCで場所・時間を問わず、学習できるシステム）を取り入れることにより、学生を含め、教員も取り組み状況を可視化でき、サポートツールとして一定の成果を上げている。

【学校関係者評価委員からの意見】

- ① 全国模擬試験との比較について
- ② グループ学習のメリットはどこにあるのか？
- ③ グループ分けはどのように行っているのか？また、成果は見られるのか？
就職後はチーム医療が大切になってくるので、とても有益ではないかと思う。

【学校からの回答】

- ① 理学療法学科に関しては、直近の模試では全国平均より、両学科ともに若干低い状態となっているが、少しでも個々の学生の成績が上がるように努力していきたい。
- ② 広範囲に渡る科目をグループ内で分担、共有することにより、効率化が図ることができる。また、理解度が違う学生がお互いに教え合うことにより、共に理解を深めることができる。教え合うことによる学生の負担については、教える学生の方がさらに理解が深まっているという傾向もあり、一概にデメリットとはとらえにくい。
- ③ 学生が孤立しないことを第一に配慮して、グループ分けを行っている。お互いを補完する目的で当初はグループ分けを行うが、それぞれが、やりやすい形のグループに最終的には変化している。成果としては、顕著にはわからないが、お互いを助け合うというリハの精神も育むことができるのではないかと思う。

2. 4年間卒業率について

【令和6年度の取り組み】

○4年間卒業率「90%以上」に向けての状況

- ・令和3年度入学生である第29期生の入学数は理学療法学科39名、作業療法学科34名である。これらの内、本校修業年限である4年間で卒業予定者は理学療法学科で34名（卒業率87.1%）、作業療法学科で26名（卒業率76.4%）である。
- ・理学療法学科・作業療法学科共に運営目標値・文部科学大臣認定「職業実践専門課程」要件の一つである「卒業率70%以上」共に達成することはできる予定である。

【学校関係者評価委員からの意見】

- ① 卒業率について、報告3「年間の退学数・留年者数」を考慮した上で、全国平均と比較すると本校はどのような評価となるのか。

【学校関係からの回答】

- ① 全国平均は調べていないため、評価は今の所行えないが、その年度によりかなりバラツキがある。

3. 退学者数および留年者数について

【令和6年度の取り組み】

○退学者数および留年者数「年間の退学者数3名以内・留年者数3名以内」に向けての状況

- ・令和6年度当初の在學生総数は222名（理学療法学科110名、作業療法学科112名）であった。これらの内、最終集計は、3月末になるが、令和6年10月1日時点では、退学者数は3名（理学療法学科2名、作業療法学科1名：2年生3名）、休学者数は1名（理学療法学科1名：3年生1名）である。

【学校関係者評価委員からの意見】

- ① 退学者数・留年者数も昨年度と比較するとかなり少なくなってきたので、今後も継続して取り組んでいただきたい。

4. 入学試験受験者実数について

【令和6年度の取り組み】

○入学試験受験者実数「100名以上」に向けての状況

- ・本年度の入学予定学生は高知健康科学大学2期生の入学試験となる。定員は土佐リハビリテーションカレッジ80名に対して、高知健康科学大学は70名（理学療法学専攻35名、作業療法学35名）である。
- ・本年度より新たに「総合型選抜」「社会人選抜」、一般入試では「共通テスト利用」を取り入れた。現在、3回の入試を終え、理学療法学専攻34名、作業療法学専攻21名（計55名）という結果であり、幾分作業療法学専攻の志願者数が伸び悩んでいる。因みに昨年の1期生は両専攻ともに27名ずつ（計54名）であった。オープンキャンパス開催や進学ガイダンス参加、高等学校訪問等の多様な広報活動を計画・実行している。オープンキャンパスの開催数は昨年より1回分少ないが、参加者数は昨年度と同様の数であった。

【学校関係者評価委員からの意見】：

- ① 理学療法学専攻と作業療法学専攻の志願者数の相違の原因は分析できているのか。
- ② 合格者の県内・県外の比率はどれ位か。

【学校からの回答】

- ① 詳細な分析はできていないが、全国的に、リハ志願者が減少しており、その中でも理学療法と作業療法を比較した場合、作業療法の割合が少なめになるという傾向がある。その要因として、高等学校の教員に作業療法が専門学校と同じように大学でも学べるという情報がうまく伝わっていない可能性がある。また、土佐リハビリテーションカレッジが高知健康科学大学になったという情報も伝わっていない可能性もある。
- ② 合格者数55名のうち、県外者は1名でほぼ県内志願者である。昨年度は県外者が2名であった。県外志願者数を増やす為に積極的に高校訪問等を行っている。

5. 就職率について

【令和6年度の取り組み】

○就職率「100%」に向けての状況

- ・両学科の就職率は第1期卒業生以来、27年連続して100%を達成できている。12月現在、就職内定が決定している学生は、理学療法学科34名中26名(76.5%)、作業療法学科26名中21名(81.1%)である。本年度、理学療法学科は県内、作業療法学科は県外就職が多い傾向にある。
- ・令和6年度採用の求人数(11月現在)は理学療法学科2,720名(内、県内68名)、作業療法学科2,257名(内、県内72名)である。前年度また過去5年間と比較しても増加が見られており、求人状況はほぼ横ばいで安定している。近年の求人先は多様化しており、本校の内定者も事業所の就職が昨年に比べ増えている。

【学校関係者評価委員からの意見】

- ① 内定者の就職先の県内・県外の割合等ほどの程度なのか。
- ② 作業療法学科が県外の就職先に行くというのは、県内に就職先がないということなのか？

【学校からの回答】

- ① 理学療法学科は約8割位が県内、作業療法学科は約7割位が県外である。年度によりバラツキはある。
- ② 県内では、就職先は多くあり、人が足りない状況となっている。年度によるバラツキはクラス内での学生間の志望がかなり影響しているのではないかと。また、県外(特に関西方面)の就職先の福利厚生面に魅力を感じたり、県外の非常勤講師等の話を聞いて、さらに県外で学修したいという学生もいる。

6. その他の報告事項

・就職説明会・臨床実習指導者会議

本年度も、就職説明会・臨床実習指導者講習会は、オンライン開催とした。従来の新型コロナウイルスに対する感染対策の意味合いは薄れたが、オンラインの定着・遠方の施設参加の労力の軽減などメリットも感じている。就職説明会は、対面よりも多くの施設に触れることができ、就職の意思決定に役立っている。今後もメリットを活かしてオンライン開催の継続を検討したい。

・大学化に伴う在校生の卒業に向けた取り組み状況について

本学院において、令和6年4月の高知健康科学大学の開学に伴い、土佐リハビリテーションカレッジは学生募集を停止し、令和9年3月以降での閉校を予定している。閉校となるのは、全ての在校生が卒業した後となるため、在校生の学修を確かなものとし、円滑な卒業に向けて、履修規程（進級基準）の弾力的な特例措置を講じている。（あくまで進級基準の弾力化であり、単位認定の基準を緩和するものではない。

【学校関係者評価委員からの意見】

- ① 特例措置はなにか規定されたものに従って行っているのか？
- ② 専門学校から大学への編入制度のようなものはないのか？

【学校からの回答】

- ① 学則の範囲内で、弾力的に行っているが、卒業要件としては、何も変わっていない。
- ② 現在においては、そのような制度はとっていない。